

一日の流れ

ある日の
タイムスケジュール

9:00 随時来所

9:30 宿題

10:15 休憩

10:30 ①コマ竹細工

11:15 休憩

11:30 ②コマ竹細工

12:15 昼食 昼休み

13:30 ③コマ折り紙

14:15 休憩

14:30 日記の時間

14:45 帰宅準備

15:00 随時帰宅

またあした!

来る前は、ドキドキした。

家以外で過ごす夏休みは初めてだったので、楽しいか心配だった。

知らない友達ともすぐに仲良くなれた! **ダンスが楽しかった!**

また来年も来たい! **友達がたくさんできたし、楽しい遊びがあった。**

理科工作で風船飛行機を作ったのが楽しかった。

保護者の声

齋藤 小百合さん
憂菜ちゃん (3年生)

普段の放課後、憂菜は家で過ごしています。夏休みの間、ずっと一人でお留守番はかわいそうかなと思っていました。『広報すえ』にサマーテイルーム募集の記事が載っていると友人から教えてもらって応募しました。

最初に予定表を見たときは、カリキュラムの多さに驚きました。たくさん講師の先生やボランティアさんたちが、毎日違うカリキュラムを実施してください、憂菜も楽しんで通いました。制作もたくさんあるので、夏休みの宿題にも充分対応できると思います。また、子ども同士で遊んで過ごせるのも魅力でした。子どもは親がないところで大きく育つ面もあるのだ、いい経験になったと思います。

ただ、子どものお迎えが延長しても17時までなので、周りのお母さんたちに話を聞くと、17時までのお迎えに間に合わないの申し込みを諦めた人もいました。お母さんがフルタイムで働いているけれど、子どもが普段は学童に行っていない家庭も多いです。普段の放課後2・3時間は子どものみの留守番で対応できても、夏休みになると、一日中子どもだけで家に置いておくのはやはり心配なので、お迎えの時間がもう少し延びたら、もっと利用希望者がいるのではないかと思います。

夏休みは子どもにとって長い休みなので、本当はいろいろな経験をさせてあげたいのですが、平日は私が仕事なので、なかなかそうもいかないのが現状です。でも、代わりにサマーテイルームでいろいろな経験ができたので、ありがたかったです。また、来年も利用したいです。

ボランティアの声

原野 武広さん (新原区)

昔遊びで、子どもたちに竹鉄砲作りを教えてくださった原野さんにお話を伺いました。

日ごろから、ボランティア派遣事業などで、子どもたちに昔遊びを教えています。子どもたちと接するときは、まず、膝をついて同じ目線になることを意識しています。子どもたちの高さを目線に合わせて、話が合つし、何を求めているのか、すぐにはわかりません。昔遊びを教える際は、近所のおじちゃんとして子どもたちに接すると、ぐっと関係が近づきますね。また、笑顔も大事で、こちらが笑ってさえいれば、子どもたちから寄ってきます。

今回は、竹鉄砲作りと遊び方を教えましたが、私が子どものころは、ナイフ一本で竹馬からゴム銃まで、何でも作っていました。こういう遊びは誰かから教えてもらうのではなく、先輩たちがやっているのを見よう見まねで、色々と知恵を絞って、自分なりに工夫して遊んでいましたね。早く先輩たちのグループに入りたくて、必死になつて先輩たちの技を覚えました。その過程でケガをすることもありましたが、そういう体験を通していろいろなと覚えていきました。

子どもに昔遊びを教えていると、自分が子どもだったころを思い出して私も楽しいです。昔の子どもたちの遊びの様子や、遊ぶ物がこんなに簡単にできるといふことを子どもたちに伝えて、子どもたちが喜んでくれたら、それが一番いいと思います。

子どもたちの声

どんな友達がくるのかな?と思った

知らない友達ばかりだと思ったので、最初は嫌だったけど、だんだん楽しみのになった。行ってみたら、同じクラスの友達がいて嬉しかった!

最初はちょっと緊張した。

毎日楽しかった 😊

来る前から楽しかった。

学校も学年も違う子ども友達になれた。



子どもの居場所づくり事業「須恵っ子サマーテイルーム」を実施しました

夏休み期間中、保護者が就労などで日中保育できない小学生児童の保育を目的として、新たにスタートした子育て支援事業「須恵っ子サマーテイルーム」。今年度は、小学1年生から4年生まで、14人の児童が参加しました。

7月21日(木)の開所式で、初めて集まった子どもたちは、学校も学年もバラバラで、少し緊張気味かな? と思いましたが、ニコニコ顔ですぐに打ち解けた様子でした。

実施にあたり、子どもたちがサマーテイルームで過ごす間、夏休みの宿題だけでなく、さまざまな体験を通して有意義な時間を過ごせるよう運営主体の須恵町シルバー人材センターや、関係団体と協議を重ね検討しました。地域ボランティアの皆さんの協力もあり、竹細工や須恵町音頭、絵本の読み聞かせなど、多彩なカリキュラムが揃い、子どもたちは、日替わりで多種多様な体験を楽しみました。

8月24日(水)の開所式では、子どもたちが、練習を重ねてきたダンスや歌を発表しました。22日間、一緒に過ごしてきた仲間だけあって息もぴったり。発表を見に訪れた、家族や関係者からは惜しみない拍手が送られました。

サマーテイルームの期間中、子どもたちは、困っている友達を助けたり、離れた場所で泣いている友達の横にそっと寄り添ったりと、お互いを思いやる姿が見られました。上級生は、リーダーシップを発揮してみんなをまとめ、低学年の子たちはそんな上級生から刺激を受けていたようです。

今年度初めての取り組みというところで、実施にあたり手探りの部分もありましたが、今年度の課題点も踏まえ、来年度は更に子どもたちが楽しめる事業になるように繋げていきたいと考えています。